

春子発生量増加のため散水用の水を集めましょう

1 はじめに

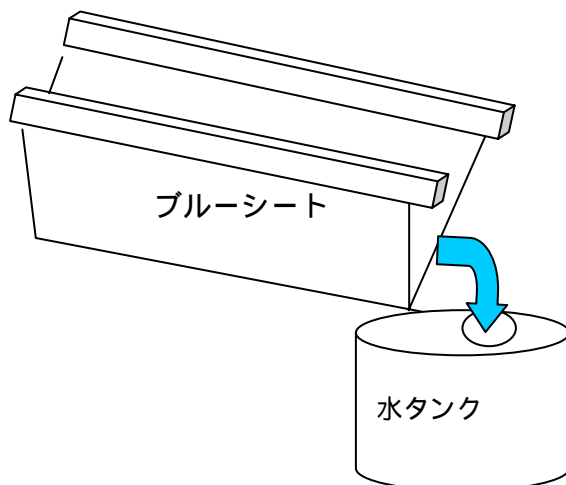
春子の発生量を左右するものは、気温と降水量です。毎年少雨により発生量が少ないことが理由として言われます。

今年は降雨のみに頼らず、生産者自身が収量を確保する作業を行ってみましょう。散水用の水の確保が難しい、水の便が悪い場所では雪どけ水も利用しましょう。

2 水の便が悪いところでの集水

近くに沢などがない場所では、発生期に散水することは非常に困難です。少しでも収量を増やすため、発生期に備えてできるだけ多くの水を確保しましょう。

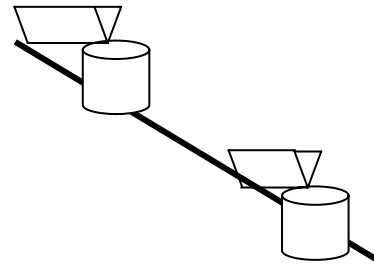
水源の無いところでは、ブルーシートなどを使用して降雨や雪解け水を集水します。



ブルーシートは、林木に取付けたり間伐材などで押さえますが、強風などにあおられないようにしっかりと固定しましょう。

なお、集水したものは後に使用しやすいように、高いところから低いところまで段階的に設置すると、使用しやすくなります。

集水後は、できるだけ節水に努めましょう。



注) 例えば10cm積もった雪がとけた場合、雪質にもよりますが、約1cmの水となります。水の便が悪い所では早めに集水しましょう。

3 交通の便が良いホダ場

水の便が悪くても交通の便が良いホダ場では水を運搬して散水することが可能ですので、軽トラック等で集水したタンクを運搬します。

4 集水のポイント

(1) フィルター類の取付け

雪どけ水を集水する場合は、落ち葉などのゴミがタンク内に流入することがあります。集水口には目の細かい布など取付けましょう。ゴミが入ったまま散水すると、ポンプの故障や散水管の目詰まり等の原因となります。

(2) 凍結防止対策

ホダ場によっては日陰で気温が上がらない場所がありますので、集水した場合には凍結による破損を防ぐためタンクの8割を目安に貯水してください。

(担当 林業専門技術員 伊東茂敏、 特用林産部 主任専門研究員 小原孝文)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11
岩手県林業技術センター

ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>

TEL 019-697-1536
FAX 019-697-1410